



CASE STUDY (優良事例紹介)

ユニバース 盛岡みたけ店様

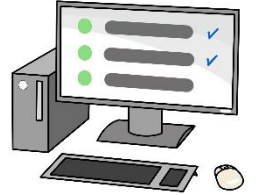
(住所:盛岡市みたけ2丁目8-25)

【企業概要】1967年10月の設立以来、「Customers, our Priority.」という基本的な考え方のもと、地域の皆さまに「食」の安全と安心とショッピングの喜びと利便性を提供し、地域に密着した食品スーパーマーケットを展開しています。

環境問題にも積極的に取り組んでおり、省エネ・省資源、資源のリサイクルやゴミの減量はもちろん、環境配慮商品の品揃え、レジ袋の削減、物流の効率化などを進めています。

【事例1】廃棄物収集運搬・処分業者のチェック体制の構築

ユニバース様では、各店舗で契約している廃棄物収集運搬・処分業者について、管理システムにより本部で一括管理し、チェックする体制を構築されていました。



- 廃棄物収集運搬・処分業者の許可期間の管理。
→ 許可期限が切れるまでに更新がないと、アラートメールで知らせ、確認漏れを防いでいる。
- 産業廃棄物の処分業者について、1年に1度、適切な処理が行われているか現地チェックを実施しているが、チェック結果の記録並びに評価もシステムで管理。

POINT

産業廃棄物の処理を業者に委託したとしても、委託した産廃処理業者が不適正処理を行えば委託した側の責任も問われることとなります(排出者責任)。

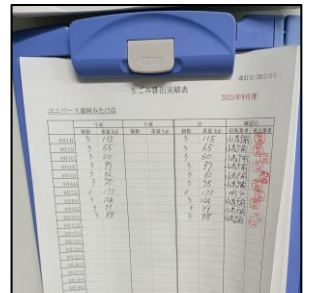
委託した処理業者が適正な処分を行っているかを定期的に確認する事が大切です。

※盛岡市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例21条の6により、排出事業者等には産業廃棄物の処分の状況を1年に1回以上実地に確認し(実地に調査している者から聴取し、および確認することを含む)、その結果を記録することが義務付けられています。

【事例2】ごみの発生量の月次での把握と店舗への共有

ユニバース様では、収集運搬業者から毎日、ごみの排出量を本部に報告してもらっており、その実績を月次毎に取りまとめ、店舗に共有する仕組みを構築しています。

盛岡みたけ店様では、月1回の打合せ時、もしくは朝礼の中で、スタッフに実績を共有し、啓発を行っています。



ごみの種別毎の排出量記録表。収集運搬業者が重量を確認し記載する形となっています。

POINT

どこから、どのくらいの廃棄物が出ているのかを具体的に知る事で、無駄な排出箇所や過剰な資源の使用が明らかになります。

この事実を把握する事が、問題意識を高め、具体的な減量策の検討に繋がります。

PICK UP

同店では、店舗の正面出入口風除室の脇に環境掲示板があり、取組みと実績について、来店される方にも周知を行っています。



【事例3】現場での適切な分別の実施

一般廃棄物に混入しやすい、廃プラスチック（産業廃棄物）や古紙（OA用紙や雑紙など）について、専用のごみBOXなどを設置し、現場（部門）で手元分別されています。



廃プラの分別状況①



廃プラの分別状況②



廃プラの分別状況③



古紙の分別状況①



古紙の分別状況②



休憩室の分別状況。ごみの種別が分かりやすく明示しており、非常に効果的です。

資源・廃棄物の一時保管庫についても、ごみ種別と保管場所が明示されており、きれいに整理整頓されています。



生ごみを含む一般廃棄物保管庫は全店舗、空調設置。臭いもコントロールされていました。

PICK UP



商品配送用の通箱。



シャリ玉トレーは使用后、回収されリサイクル。

同店では、その他にも次のような取組みも行っています。

- 商品配送は段ボールから共通の通箱（かよいばこ）に変え、段ボールの排出を削減。
- 寿司のシャリ玉のトレーをリサイクルの上、再利用している。
- 生ごみ・魚あらかも専門業者に委託し、リサイクルしている。
- 総菜部門の揚げ油もろ過機を使用し、再利用（廃油の量が大幅に減少した、との事）。
- フォークやスプーンは有料とし、プラスチック製品の排出を抑制。
- トレーについても、本部で店舗ごとの使用重量実績を集計し、店舗に共有。